

# 展示室5 特集 80年代の川俣正 2019年4月20日(土)～6月23日(日)

昨年から今年にかけて、1980年代の日本現代美術を検証する展覧会が各地で開催されました。70年代末に活動を開始し、現在までに世界各地で様々なプロジェクトを実現してきた川俣正(1953年北海道に生まれ)も、80年代を振り返るときに欠かせない作家の1人です。

川俣は、東京藝術大学大学院在籍中の82年、第40回ヴェネツィア・ビエンナーレに早くも日本代表作家として参加し、吉阪隆正設計による端正な箱形の外観を持つ日本館の建物に不揃いな板材による構造体を設置し、仮設性を強調したインスタレーションを実現しました。その仮設性は、87年の「デストロイド・チャーチ・プロジェクト」に至って、空間の変容による都市記憶の再生という意味合いを帯びます。プロジェクトの舞台は、第二次世界大戦中の空爆により半壊した姿のまま残されていた教会でした。川俣の介入により歴史的な記憶の場は一時的に変容し、人々の注意力をより鮮明に喚起したと言えるでしょう。その後川俣の関心はスラムやホームレスの住空間、生活意識へと向かい、実現はしませんでした。が広範囲にわたって多数の仮設小屋を連結させるように木材を組む88年の「プロジェクト・ファヴェーラ・サンパウロ」では、都市の抱えるより現代的な問題を提起しようとしてしました。

川俣にとっては、プロジェクトを立案し、様々な人と交渉を重ね協働しながらそれを実現していく過程も、作品の重要な一部と言えます。今回は80年代に川俣が世界各地で行った5つのプロジェクトを、プラン・モデル(マケット)やレリーフ状のドローイングなどにより紹介します。

No.	作者名 (生年)	作品名	制作年	技法・材質	寸法(cm)	備考
1	川俣 正 (1953- )	ヴェネツィア・ビエンナーレ、 プラン・ドローイング1	1982	バルサ材、鉛筆、グワッ シュ・紙	55.6×76.5	寄託作品
2		ヴェネツィア・ビエンナーレ、 プラン・ドローイング2	1982	バルサ材、鉛筆、グワッ シュ・紙	55.4×76.4	寄託作品
3		ヴェネツィア・ビエンナーレ、 プラン・ドローイング3	1982	バルサ材、鉛筆、グワッ シュ・紙	55.6×76.6	寄託作品
4		ヴェネツィア・ビエンナーレ、 プラン・モデル	1982-86	バルサ材、合板	78.3×142.2×116.4	寄託作品
5		「プロジェクト・ワーク・イン・埼玉」、 プラン・ドローイング	1983	ペン、鉛筆、グワッシュ・ 紙	78×108	寄託作品
6		「プロジェクト・ワーク・イン・埼玉」、 プラン・ドローイング	1983	ペン、鉛筆、グワッシュ・ 紙	78×108	寄託作品
7		「プロジェクト・ワーク・イン・埼玉」、 プラン・モデル	1983	バルサ材、合板	60.2×143.3×91.2	寄託作品
8		ライムライト・プロジェクト、プラン 14	1985	バルサ材、合板	183.0×203.5×11.0	寄託作品
9		デストロイド・チャーチ・プロジェクト (カッセル、ドクメンタ8)、 プラン・ドローイング	1986	アクリル、鉛筆、バルサ 材、合板	243.0×366.0×10.0	寄託作品
10		デストロイド・チャーチ・プロジェクト (カッセル、ドクメンタ8)、 プラン・モデル	1986	バルサ材、合板	91.8×211.7×130.0	寄託作品
11		デストロイド・チャーチ・プロジェクト (カッセル、ドクメンタ8)、 フォト・ドキュメント	1987	カラー写真・パネル	125.0×200.0	寄託作品
12		プロジェクト・ファヴェーラ・サンパウ ロ、プラン	1988	バルサ材、段ボール、ビ ニールシート、合板	220.3×259.8×12.5	寄託作品

※都合により展示作品を変更する場合がございます。ご了承下さい。